

絵葉書のなかの成田

東京成徳大学伝統文化資料室開設企画展

千葉県成田市は「日本の空の玄関」といわれますが、また、不動信仰のメッカとしてたくさんの参詣者を集める「成田山新勝寺の町」としても有名です。

新勝寺は、平将門の乱（930年代）の平定に関わる真言宗の寺院です。将門の乱を調伏せよとの命を受けた寛朝が、不動明王とともに成田に赴き、護摩修行をおこなって乱を鎮めるのですが、帰京しようとしても不動明王は動かず、天皇が新勝寺と名付けた堂を建てた、という興味深い縁起をもっています。

江戸時代中期（元禄から享保のころ）から、江戸や房総での開帳を積極的におこない、また歌舞伎の市川團十郎の厚い信仰が宣伝され、江戸庶民を中心に広い支持を集めることになります。本学がある八千代市も、江戸から成田山に向かう成田街道が通り、参詣客をもてなす大和田宿が発展しました。

本展示は、この新勝寺を中心に、大正から昭和前期に発行された成田に関わる絵葉書と、今でも参道でひととき目立つ大野屋旅館（成田市最初の登録有形文化財）の銅版画などを紹介します。

日本伝統文化学科2年生の学外授業では、ここ数年、成田山新勝寺を訪ねています。また、かつては大野屋で昼食をとることもありました。学外研修の事前学習の意味を込めて、このささやかな展示をおこないます。

会場

東京成徳大学伝統文化資料室(教室棟3階308教室)

期間

4月19日(木)～5月24日(木)

月～木の12:15～13:00

[休室 4月27日(金)～5月2日(水)]



新勝の額寺に奉納された俱利伽羅龍王の額

2007年4月19日

[人文学部日本伝統文化学科]
房総地域文化研究プロジェクト
房総地域文化研究プロジェクト学生会